

事業報告

夏期英語研修（英国立バンガー大学にて）報告

Report on the English Language Summer Course at Bangor University in the UK

石川玲子

キーワード 英語研修、イギリス（英国）、ウェールズ、バンガー大学



本学は平成27年4月英国立バンガー大学日本研究所（Institute of Japanese Studies, Bangor University：以下 IJS）との間に、同研究所がダブリン大学トリニティ・ファウンデーション・プログラム（以下 TFP）との共催で提供する3週間の英語研修やディスタンス・ラーニングについて、相互に協力しあうことを約する協定を結んだ。その協定に基づき、今年度本学では初めてバンガー大学での英語研修の希望者を募った。この研修の参加者は、研修の参加に加え、事前・事後指導の出席と課題提出を行うことにより、2単位を取得できることになっている。

説明会を経て、最終的に参加したのは人文学部3回生1名のみであったが、先述したように、本学にとってバンガー大学での研修は今回

初めてであったので、国際交流部長として、また「海外研修」の担当者として、学生に同行し、プログラムの一部を視察した。また、IJS 所長砂田恭美氏やスタッフの方々とも親交を深め、様々な情報を得ることができた。以下に、4日間の滞在で得た情報や視察した内容を含めて、今回のプログラムについての報告をする。

英語研修について

この英語研修には、本学1名の他に、愛媛大学7名、岡山県立大学11名、神戸大学1名、学習院大学1名（神戸大学、学習院大学からの各1名は協定校とは別のルートからの参加）、合計21名が参加した。参加者は、8月27日から9月17日までの3週間、それぞれバンガー市内、および近郊にホームステイをし、月曜から金曜まで、週18時間、計54時間の授業を受講した。それらの授業は、TFPに所属するEFL（English as a Foreign Language）専門の教員7名と、バンガー大学とTFPの両方で教鞭を取るビジネス専門の教員1名によって行われた。授業の内容については後述するが、非常に多彩なものとなっている。参加した21名は最

初のテストで2つのクラスに分かれたが、内容によって2クラス合同での授業も行われた。

プログラムの内容について

まず、私が同行した8月27日から29日の流れを述べる。私が同行したのはプログラムのほんの一部であるが、その間学生と行動を共にして、授業を参観することで、学生に対するスタッフのケアが非常に行き届いたものであること、またプログラムの内容が非常に充実したものであることを実感した。

8月27日早朝に伊丹空港を立ち、成田空港とロンドンのヒースロー空港で飛行機を乗り継いで夕方マンチェスター空港に到着。マンチェスター空港で、IJSの日本人スタッフが出迎えてくれた。そこで、他大学の学生と合流し、車で2時間ほどの距離を、貸切バスでバンガー市に向かった。(岡山県立大学の学生は事情で2日後に到着。プログラムには翌週からの参加となった。)バスの中では、バンガー市内の地図をはじめ、差しあたって必要なプリントが配布され、把握しておくべき事柄についての説明を受けた。また、スタッフの方がバスの中で撮ってくださった写真は、パスワードによって保護された家族用のブログに後ほど掲載された。(このブログは、学生がバンガーに滞在している3週間毎日更新され、丁寧に編集された写真と動画、説明文を通じてプログラムの内容と学生の様子を知ることができるようになっている。)この日は夜の9時過ぎにバンガー市内に到着し、学生は迎えにきてくれたホストファミリーと共に、それぞれの家へ向かった。

翌日(28日)は、学生たちはそれぞれバスや徒歩などで、ホストファミリーとスタッフの助けを得て登校。全員が10時に集合した。ま

ず、日本人スタッフの司会により、学生たちが自己紹介をしたが、多くの学生が英語の修得に対する意欲と目的意識をもって参加していることが感じられた。次にIJS所長砂田氏からプログラムの内容や流れについての全体的な説明があった。その後のオリエンテーションでは、イギリスでの生活についての留意点やホストファミリー宅でのマナーなどの説明があり、学生にとって役立つ情報が多く含まれていた。このオリエンテーションは、日本人スタッフによる日本語での説明の後、バンガー大学教員によって英語での説明(一部内容が異なる)がなされるという二段階で行われたが、そこには、英語力の問題で大切な注意点や留意事項を理解できないということのないように、しかし一方で、英語を学びに来たのだという学生の自覚を促すようにという配慮がなされていると感じた。

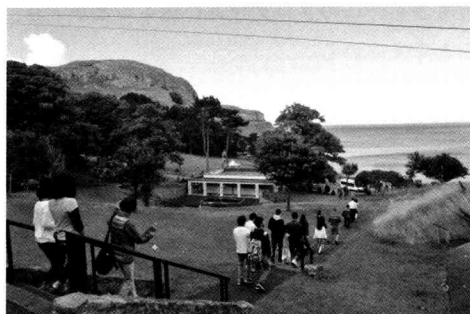
休憩を挟み、「Life in Britain」というテーマで、ペアワークを組み込んだ授業と、翌日のフ



フィールドトリップで訪れる場所について、ウェールズやイギリスの歴史・文化との関わりにおいて学ぶ授業があった。教員の説明は身振り、手振りを使ったわかりやすい英語でなされ、学生からの発言を引き出すための働きかけが常にあった。また写真やホワイトボードが効果的に利用されていた。さらに、説明の内容にうまく絡めて、学生を立たせて歩かせたり、男女のペアで腕を組んで歩かせたりすることで、学生の身体や気持ちをほぐし、クラスの雰囲気を活気づかせることも、効果的になされていた。

初日の昼休みには、バンガー市内のツアーが組み込まれていた。IJSのスタッフの案内で、バス停やスーパーマーケット、カフェなどの場所を確認した。街の中心にあるバンガー大聖堂前で記念撮影の後、解散後に各自昼食を取った。

午後はウェールズの過去の出来事を扱った記事を読んで理解するという「Reading」の授業であった。英文記事を黙読した後、難しい語彙や描写されている状況について教員が絵を描いたりパラフレーズ（言い換え）をしたり、学生自身が考えたりする中で、内容を理解していった。読解にあたっては、文章中の直喩（simile）の効果を考えてといった修辭的な視点も導入されていた。ある程度英語の語彙力、文法力、読解力を身につけていなければ、ついていくのは



難しいと思われる授業であったが、私の印象では、全ての学生がきちんと理解していたと思う。

翌日は、バスでのフィールドトリップであった。前日に学んだ場所を実際に訪れ、単に観光するだけではなく、学生たちは前日の授業で学んだ内容に関する問題を、グループで解いていくことが求められた。これによって、前日の学びがより深められ、フィールドトリップがより充実したものになったことは、確かである。

私が実際に参観した授業は以上であるが、その他、「Writing」や「Active English & Speaking」、「Listening, Pronunciation, Discussion」といった英語の4技能を磨く授業に加え、街頭でのインタビューなどフィールドワークを含む「ビジネス研究（Business Studies）」や、異なる階級をターゲットにした新聞2紙を比較し、報道の視点や表現の仕方がどのように違っているかを考える「メディア研究（Media Studies）」、修了式で成果を披露することになる「劇（Drama）」の授業など、学生にとってはかなりチャレンジングな内容の授業もプログラムの中に組み込まれている。また、ウェールズ語を学ぶ授業もあり、学生にとってウェールズの文化、ウェールズ人の心に触れる貴重な時間となっている。

最初のオリエンテーションで学生全員に伝えられたことであるが、3週間のプログラムの最後には、学生はその間に学んだ内容についてのファイナルテストを受けることになっている。そのため、授業の中ではきちんとノートをとること、理解できないことは放っておかないことが、強く推奨されていた。このことからわかるように、このプログラムでは単なる異文化体験に終わらず、短期間であるとしても英語の4技能や表現力を磨くこと、イギリスやウェール

ズの文化や歴史について学ぶことが大きな目標とされている。

ホームステイについて

学生は基本的に一人ずつ現地の家庭にホームステイし、3週間を過ごす。ホストファミリーと学生とのマッチングは、学生の趣味や嗜好などを考慮して IJS が行ってくれる。砂田氏によると、ホストファミリーを引き受けてくれる家庭は、ほとんどが毎年 IJS のプログラムに協力してくれている。そのため、学生との接し方にも慣れており、日常生活の中でも学生のためにゆっくり話したり、英語の表現を教えたりといった教育的な配慮もしてくれるようである。また学生を家庭の一員として温かく受け入れ、週末には家庭ごとにピクニックや観光などに連れて行ってくれる。ある家庭が、都合で週末の時間を学生のために割くことのできない場合は、他のホストファミリーがその学生も一緒に観光に連れて行くというように、ホストファミリー同士の協力体制もできている。

このようなホストファミリーの温かい協力は、ウェールズというホスピタリティの精神に富む土地柄もあるようだが、さらには IJS スタッフと各家庭との間の密なコミュニケーションに基づく信頼関係の賜物であるという印象を受けた。そしてまた、ホームステイ先でのマナーについて、オリエンテーション時にかなり細かな注意がなされること、プログラムの後には、IJS スタッフが各家庭と面談をして、情報を共有することを欠かさず行っているということからも、その信頼関係の裏には IJS の丁寧な対応があることを強く感じた。

最終日には、ホストファミリーやバンガー副市長、前市長などを招いての修了式 (Closing

Ceremony) がバンガー市内の教会で行われた。練習を重ねて本番を迎えた英語劇、日本の文化や出身地を紹介するプレゼンテーション、数名の代表によるスピーチによって、プログラムでの成果を披露した後、参会者全員でのウェールズ語によるウェールズ国歌の合唱と、ホストファミリーや先生方、一緒に学んだ仲間たちとの茶話会で、学生たちは3週間のプログラムを締めくくった。この修了式に休日の時間を割いてほとんどのホストファミリーが集まってくれたことから、ホストファミリーの方々が学生を心から受け入れてくれていることが伺える。

終わりに

上述の通り、この度本学では初めてバンガー大学における IJS による英語研修プログラムに参加したが、引率教員として授業を参観し、IJS スタッフの学生に対する行き届いたサポートを目にすることで、また IJS が発信するプログラムに関するブログの文面や写真を通して、このプログラムが細かな配慮をもって運営されており、非常に充実した内容を持っていることを実感した。またスタッフ、教員、さらにホストファミリーのチームワークが極めてうまく機能していることもよくわかった。

今後も、イギリスの文化に触れ、英語を学びたいという意欲を持った学生を、本学から一人でも多く、このプログラムに送ることができたらと考えている。

参考資料：

9月7日（月）から9月11日（金）までの時間割。科目名の下の略語は担当者を意味する（欄下参照）。

ENGLISH LANGUAGE SUMMER COURSE
Timetable
Monday 7th September – Friday 11th September 2015

	Class	9:30-11:00	11:00-11:15	11:15-12:45	12:45-14:00	14:00-16:00
MONDAY	A	9:30-12:00 Drama			12:00-13:00 Lunch	13:00-17:00 Field Trip Plas Nweydd JO & AE
	B					
TUESDAY	A	9:30-11:00 Writing MS		11:15-12:45 Active English & Speaking AE	12:45-14:00 Lunch	14:00-15:00 Visit Bangor Cathedral Bangor Museum 15:00-16:00 Visit Bangor Cathedral Bangor Museum
	B	9:30-11:00 Active English & Speaking AE		11:15-12:45 Writing MS		
WEDNESDAY	A	9:30-17:00 Field trip Chester				
	B					
THURSDAY	A	9:30-11:00 Listening, Pronunciation, Discussion PW		11:15-12:45 Reading BL	12:45-14:00 Lunch	14:00-16:00 Media Studies PW
	B	9:30-11:00 Listening, Pronunciation, Discussion MS		11:15-12:45 Reading MS		
FRIDAY	A	9:30-11:30 Business Studies PK	11:30-12:30 Lunch	12:30-15:30 Business Studies Supermarket research	15:30-17:00 Business Studies Feedback PK	
	B					

Name: AE - Antonia Eastman PW - Penny Williams JO - Joy Ostle DR - Derek Roberts MS - Margaret Shooman
 BL-Bill Lewis MD-Martin Davies PK- Patrycja Klusak